

でんでら通信 第百二十号 令和六年四月

花まつり

四月八日はお釈迦様のお生まれになった日です。今年も門前に花御堂を祀り甘茶供養をいたしますので、みなさまどうぞご参詣ください。

坐禅会

四月三十日(火)十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

能登半島地震義援金

去る三月二十五日をもって、当寺本堂内に設置しておりました義援金を回収し、本山へ送金しました。後日、妙心寺派各寺院から寄せられた義援金は本山より被災者団体へと送金されます。みなさまの温かい被災者への「よりそい」の心、ありがとうございます。

禅林寺集金額 六、九四二円

ホームページの不調

現在、インターネット上において、禅林寺のホームページが検索しづらい状態となっております。調べても出てこない」という声も聞かれます。検索エンジンのグーグルでは、「瑞光山禅林寺 トップページ」でなんとかホームページにたどり着けるのですが、ヤフーでは、禅林寺は見つけられません。

どうか、グーグルで検索の程、お願いいたします。今後できれば、ホームページを表記して「お気に入り」登録していただくか、画面上にショートカットいただきますようお願いいたします。

明珠在掌

私事ですが一週間前、食事中に口の中の舌を噛みました。「痛！」結構な傷のようで、血が口の中に広がりました。出血は、程なく止まりましたが、痛みだけは残りました。

その後、食事するにも、おしゃべりするにも痛みがあり、顔をしかめる日が続きました。

人は食事中、食べ物がよく咀嚼(そしゃく、かみ砕く)できるように、無意識に舌で口の中の食べ物を左右に動かしています。

食べ物を右へやると「痛！」左へやると「痛！」ふだんは当たり前のように食べられたのが、舌の傷により、美味しいものもおいしく食べられません。また眠っていても舌を動かすと痛みが走り、目が覚めてしまいます。

なんとも厄介です。ましてや、年度末で送別会など宴席もあり、ご馳走を前にして、ひじょうにつらい食事となってしまいました。

「みょうじゅ てのひら あ  
明珠、掌 在り」という禅の言葉があります。

明珠は宝物のことです。素晴らしい宝物は、最初から手のひらの中にあるのだ、という意味です。あるお檀家さんが、ご主人を亡くされた後で、私

にこんな話をしてくれました。

「和尚さんね、旦那が生きるときは、まあ、賭け事はするし、酒を飲んで介抱させられるし、ろくな旦那じゃない、と腹を立ててケンカしたこともあったよ。けど、亡くなった今となっては全てが懐かしく思える。愛おしく思えるのよね」と。

私は「亡くなった今となっては全てが懐かしく思える。愛おしく思える」という言葉に深い深い愛情を感じました。

夫婦のことを「連れ合い」とはよくいったもので、ふだん悪口や嫌味を言っている、連れ合いは、頼ったり頼られたりしながら、一緒に人生を歩む同士のようなものなのでしょう。それは実は宝物なのです。一番身近な存在の大切さ、いてくれる有り難さに気付くかどうか、それが生前中か、亡くなってからなのか、できればそれに早く気がつくべきなのでしょうが、他人は口をはさめません。

幸せは自分のすぐ近くにある。素晴らしい宝物は最初から手のひらの中にあるのです。

健康も同じです。人前で感謝する心をお話することが多い私ですが、今回、舌を噛んで、ふだん何とも思っていなかった舌の有難さも、また大きな気づきでした。当たり前のように食事をして美味しく食べることができるとへの感謝。これはなんとも尊いことなのだ、と思ひ知りました。皆さんのすぐ近くにも、きつと幸せや宝物があります。必要なのは、探しに行くことより、気付くことなのです。

その後、数日痛みが堪えていた舌は、薬を塗った数日で治りました。早く薬を塗るべきでした。(笑)